

### 1. 調査目的

能登半島地震で発生した土砂災害発生箇所へのアクセスルートや道路上から発生箇所を確認し、学術的かつ技術的に優位となる対象箇所の絞り込み等、今後の災害調査団設置のための基礎資料とする。

### 2. 調査日程

令和6年7月20日（土）～21日（日）

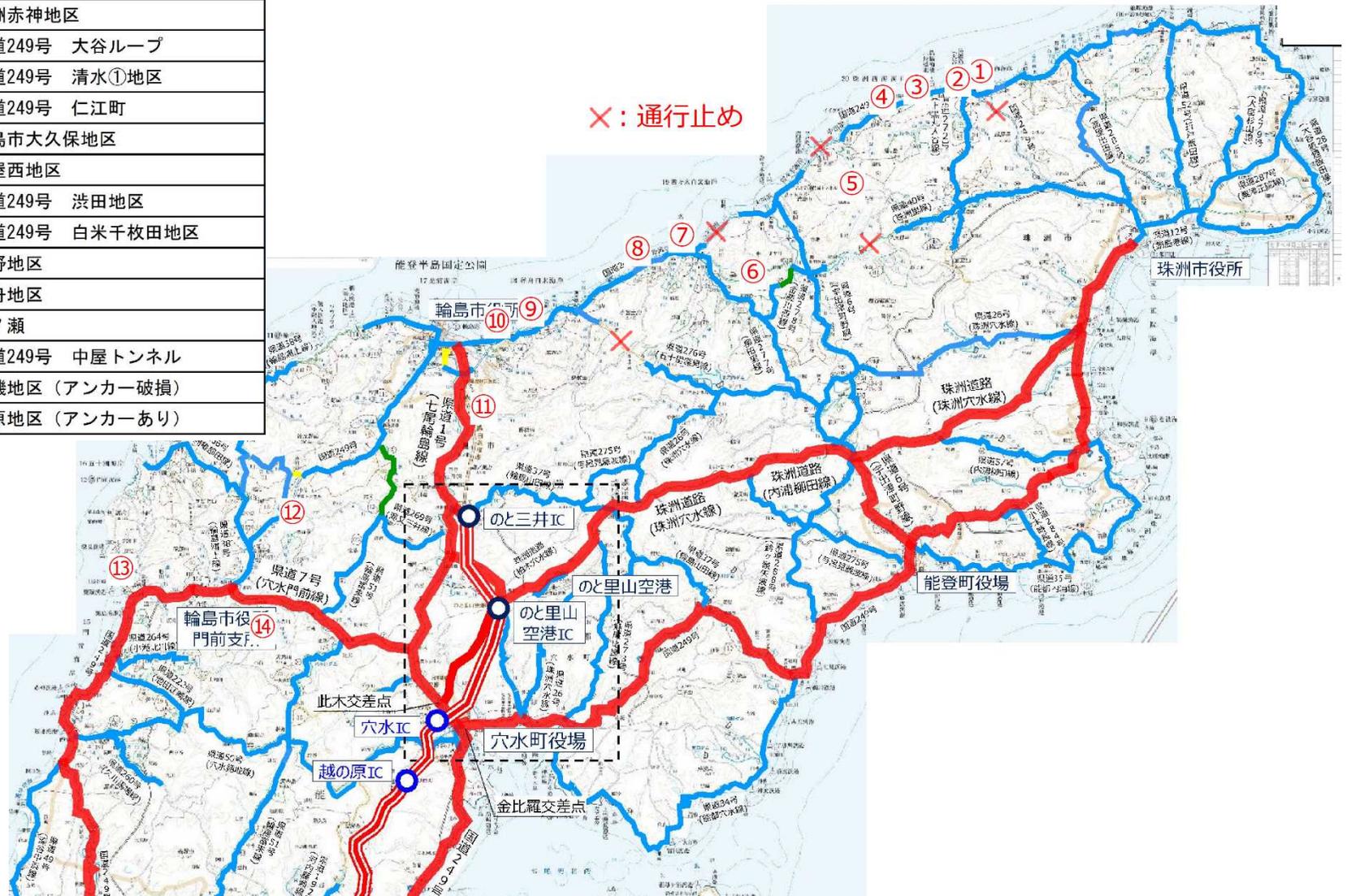
### 3. 調査団編成

1月1日の地震発生より当該地区の土砂災害調査等に携わっている石川県在住の学会メンバー主体で構成した。以下のメンバーについては、今後の調査団において事務局としてサポートする予定である。

所属	氏名
富山県立大学	古谷 元
石川県立大学	大丸 裕武
日本工営株式会社	法水 哲
日本工営株式会社	阿部 大志
応用地質株式会社	北原 哲郎
応用地質株式会社	田中 康博
五大開発株式会社	藤原 大佑
中部地質株式会社	近藤 健二

#### 4. 対象箇所

対象箇所
① 珠洲赤神地区
② 国道249号 大谷ループ
③ 国道249号 清水①地区
④ 国道249号 仁江町
⑥ 輪島市大久保地区
⑥ 鈴屋西地区
⑦ 国道249号 洪田地区
⑧ 国道249号 白米千枚田地区
⑨ 大野地区
⑩ 岩舟地区
⑪ 市ノ瀬
⑫ 国道249号 中屋トンネル
⑬ 鹿磯地区 (アンカー破損)
⑭ 地原地区 (アンカーあり)



## 5. 対象箇所概要例

### ①珠洲赤神地区

道路上に崩土が堆積している。側部は断層崖状に見受けられる。



写真 5.1 珠洲赤神地区全景

### ②国道 249 号 大谷ループ

飛び出したアンカーを確認できる貴重な現場。これまでに多くの対策工が実施された経緯があり、今回の地すべりの規模と対比できる。アンカーの損傷などが顕著。



写真 5.2 大谷ループ全景



写真 5.3 アンカー損傷近景

### ③国道 249 号 清水①地区

発災直後から注目を浴びた現場。風化部の崩壊、岩盤崩壊が主体。



写真 5.4 国道 249 号 清水①地区全景

#### ④国道 249号 仁江町

地震後も降雨により動いている。地すべり対策施設(抑制工)の被災状況が確認できる。R249に面した斜面上部の陥没帯は整地済みで全容は把握しにくい。



写真 5.5 国道 249号 仁江町全景



写真 5.6 仁江町周辺の斜面崩壊

#### ⑤輪島市大久保地区

今回の地震では最大規模。若山川～鈴屋川～金蔵川の範囲で土砂移動箇所事例の比較として取り上げるのがよいが、複数年必要かもしれない。大きすぎて全体を把握するのが大変な印象だろう。規模から見ると重要度は高い。限られた期間で全容を把握できるか。規模が大きすぎることで、アクセスが大変なことから、踏査だけではかなり困難で、全体像がつかみにくいと思われる。



写真 5.7 大久保地区全景



写真 5.8 大久保地区近景

## ⑥ 鈴屋西地区

谷地形に沿ったボトルネック状の崩壊性地すべり。他とは違う形態。町野町周辺で崩壊・地すべり発生が多発しているの中でその中の事例としてとりあげてもよい。また、尾根の両サイドでの変状を検討しても良いかもしれない。



写真 5.9 鈴屋西地区全景



写真 5.8 鈴屋西地区近景

## ⑪ 市ノ瀬地区

発災直後から注目を浴びた現場。西側側部の妙に直線的な構造やなぜ流動化したのか、なぜ周辺部は大きな滑動が生じなかったのかに興味深い。



写真 5.9 市ノ瀬地区全景

以上